

第5章 基本方針

平成29年に策定した板橋区史跡公園（仮称）基本構想では、史跡公園整備の前提となる考え方を次のように定めた。

近代化・産業遺産を保存・活用した

都内初となる史跡公園を整備します

都内初となる近代化・産業遺産の保存・活用をめざすことで、身近な文化財を通じて板橋の産業発展や地域の歴史、平和に対する学びの機会を提供し、併せて、ふるさと板橋を大切に作る心を醸成します。

また、史跡公園を板橋の新たなシンボルとし魅力を発信していくことにより、「ものづくりの板橋」としてのブランド力のさらなる向上と定着を図っていきます。

前提1 近代化・産業遺産の保存・活用

明治時代から昭和初期にかけて形成された火薬製造所とその試験や保管、研究施設などの国内唯一の遺構を整備・保存し、板橋の歴史や文化を学ぶ場として活用することで、重要かつ先進的な産業遺産施設群として魅力を発信していくとともに次世代に継承していきます。

前提2 ふるさと板橋を愛する心の醸成

加賀地域に設置されていた旧東京第二陸軍造兵廠火薬研究所は、欧米の技術を導入しながら、日本の産業や科学技術の発展、近代化の一翼を担ってきました。また、江戸時代には加賀藩の下屋敷が置かれていた歴史的な価値と併せて、これらの史実を認識し学ぶことで地域を愛し、ふるさと板橋を大切に作る心へとつなげていきます。

前提3 ブランド力の更なる向上

火薬製造所とその関連施設などを近代化・産業遺産として残し、史跡公園として整備・保存、活用していく取組は全国でも初の試みとなります。また、かつての都内有数の産業拠点は、現在の板橋区における様々な産業の集積として結実しており、これらの歴史や産業力を情報発信することで「ものづくりの板橋」としてのブランド力の更なる向上につなげていきます。

前提4 板橋の力の結集と新たなシンボルの創出

地域や産業界、商業界、観光や文化団体等の方々と意見交換を重ねながら魅力ある史跡公園の在り方を検討していきます。区民に“愛される”・“再び訪れたくなる”史跡公園となるよう板橋の魅力の新たなシンボルとして整備していきます。

この史跡公園整備の前提となる考え方を基に、第3章で明示した史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」の本質的価値を適切に守り、確実に未来に継承するため、史跡の将来像を大綱として以下に示す。

< 大綱 “史跡の望ましい将来像” >

◆史跡の価値を守り、活用する

○明治維新から終戦まで、近代的な火薬製造所および研究所が設置され、その建造物や施設が群として残ることから、近代の火薬製造所の歴史をより良く理解できるような史跡の保存整備をめざす。

○戦後、火薬製造所および研究所の跡地・建造物を、研究所、学校、工場等が利用した。特に復興期の科学技術研究の展開を理解できる野口研究所や理化学研究所の建築群が現存することから、火薬製造所の跡地が戦後たどった地域の歴史を理解できるような史跡の保存整備をめざす。

◆史跡を整備し、多様な人々が“憩う”場の創出

○加賀藩下屋敷時代からの歴史の重層性と桜並木という景観を生かしながら、一体的に保存整備し、板橋区民の誇りとしていつまでも愛され、再び訪れたいくなる公園をめざす。

○散策やレクリエーションのために道すがら公園を訪れる人々が、遺構や歴史的建造物に加え、展示などの教育普及事業に気軽にアクセス・参加できる環境を整備することで、多様な人々が気軽に集い、さらに歴史に出会うことができる場を創出する。

◆史跡を通して、歴史・文化を“学ぶ”

○史跡の価値を構成する歴史的建造物の一部を、ガイダンス施設等として整備し、近代史・産業史・郷土史・平和教育などを学ぶ展示等教育普及事業の場を創出する。さらに当該地域における生涯学習・社会教育施設として、近隣の小中学校や高校、大学等の教育機関と連携し、地域と共に学び合う教育の推進をめざす。

○火薬製造所の敷地は史跡指定地外にも広がっており、関係する建造物や標柱なども残っている。これらは史跡の価値を理解する一助となる。史跡公園を核に史跡指定地外にある多様な文化財（未指定を含む）との関係性を尊重し、一体的に理解できる整備をめざすとともに、回遊性の構築など柔軟な活用に努める。

◆史跡を通じて、板橋の現在・未来を“創る”

○「工都板橋」の礎となった史跡の価値を活かして、地域、商店街、民間企業、大学や研究機関等と連携し地域産業や最先端研究を学習・体験できる事業を展開することで、区民をはじめとした多様な人々の科学技術に対する夢を育む。

○光学・精密機器関連産業など、板橋区を代表する様々な先端産業が誇る高い技術や製品を、展示・体験できるガイダンス施設等を整備し、区産業の歴史や先進性を広く発信することで、板橋区のブランド力を高めることをめざす。

上述の大綱に基づく、保存管理、活用、整備、運営・体制の基本方針を以下に示す。

1. 保存管理の基本方針

- (1) 史跡の本質的価値を構成する諸要素および本質的価値の理解を助ける諸要素を、恒久的に保存・管理していくために、適切な仕組みや方法を策定する。
- (2) 史跡整備に向け、今後予想される現状変更及び保存に影響を及ぼす行為について、関連法規に定められた内容に基づき史跡指定地の現状変更に関する取扱方針及び取扱基準を定める。
- (3) 当史跡は全国的にも保存整備事例が少ない近代遺跡であり、その保存整備が果たす役割は重要である。当該史跡を確実に保存し後世へ伝えるために、学術的な調査研究を継続的に実施しつづけ、史跡が持つ多様な情報の把握に努める。
- (4) 史跡の本質的価値を構成する要素および本質的価値の理解を助ける諸要素に含まれる史跡指定地外の遺構・建造物の保存管理にも努める。

2. 活用の基本方針

- (1) 区民をはじめとする多様な利用者が、史跡の歴史的・学術的な価値を理解するために、史跡指定地に現存する歴史的建造物および遺構を、保存への影響を与えない範囲で積極的に公開・活用する。
- (2) 公園の利用者にとって憩いの場となるよう、史跡の保存に影響を与えないかたちで公園の機能を充実させ、史跡と調和した活用を進める。
- (3) 歴史的建造物の一部は、地域の歴史、産業を学習できる常設展示や、様々なテーマを取り扱う展覧会など展示等教育普及事業を実施できるガイダンス施設等として活用する。
- (4) 地域住民の方々が日常的に史跡に親しみを持てるよう、生涯学習の拠点として活用し、様々な教育普及事業を継続的に実施する。
- (5) 周辺地域が持つ歴史的な価値をいかし、当史跡と近隣自治体をはじめ周辺地域

を一体的に捉えた活用のあり方をめざす。

3. 整備の基本方針

- (1) 史跡の本質的価値を確実に保存・継承するため、史跡公園として整備する。
- (2) 学術的な調査研究の成果に基づき、建造物の価値・特徴を活かしたガイダンス施設、展示空間および体験学習などの学びの場を整備する。
- (3) 史跡の範囲で戦中まで行われていた火薬の性能発射試験のように、現状では潜在化している史跡の歴史的価値を顕在化するために、遺構等の調査研究を継続的に実施し、復元整備を含めた手段やその方法を検討する。
- (4) 多様な人々が集いやすく安全で快適に過ごせるよう、建造物や遺構の保存整備、さらに園路や便益施設等の整備を行う。
- (5) 史跡の持つ価値と遺構・歴史的建造物の現存状況を考慮し、以下のような地区区分に基づき整備をする。

板橋区史跡公園（仮称）基本構想では、現状の土地利用に基づき、史跡を「現加賀公園エリア」「旧火薬製造所エリア」「旧理化学研究所エリア」「石神井川エリア」の4つのエリア（図21参照）に区分した。加えて本計画では、史跡の持つ価値と遺構・歴史的建造物の現存状況、史跡公園完成後の活用方法などの視点による地区区分について検討を行っている。

<地区区分>

- ・A地区…石神井川南岸の旧野口研究所跡地、現区立加賀公園を指す。
土塁や射塚しゃだからなる発射場や燃焼実験室等の遺構・歴史的建造物が残る西側（A地区）と、加賀公園の造成工事により歴史的建造物等が除却され、地上に顕著な遺構が確認できないが、現在は加賀公園として開放されている東側部分（A'地区）に分かれる。A地区については戦前の火薬製造所・研究所の稼働状況を理解できる整備を、A'地区は埋蔵する可能性のある遺構等を調査した上で現状保存し、公園本来の機能を充実させる整備をめざす。なお両者の範囲は、今後試掘調査等を実施し得られた成果に基づき更新する。
- ・B地区…石神井川北岸の旧理化学研究所跡地を指す。
この地区には物理試験室や爆破用コンクリートアンカー等の戦前の遺構・歴史的建造物が現存し、戦後入居した理化学研究所はそれらを改変しながら利用した。戦前の遺構・歴史的建造物を戦後理化学研究所が利用した経緯が理解できる整備をめざす。
- ・A、B地区の他に、石神井川を含む史跡指定地の外についても本計画で検討する。

(6) 史跡指定地内のみならず指定地外に点在している史跡の構成要素を関連付け、回遊ルートの設定やマップ等を作成するなど、陸軍板橋火薬製造所時代の敷地の規模が体感できるような整備をめざす。

4. 運営・体制の基本方針

史跡の保存・活用を包括的に進めていくために、区関係部局をはじめ、地域住民の方々や関係団体との密接な連携に基づいた運営体制を構築し、史跡が地域に根付いた存在となることをめざす。

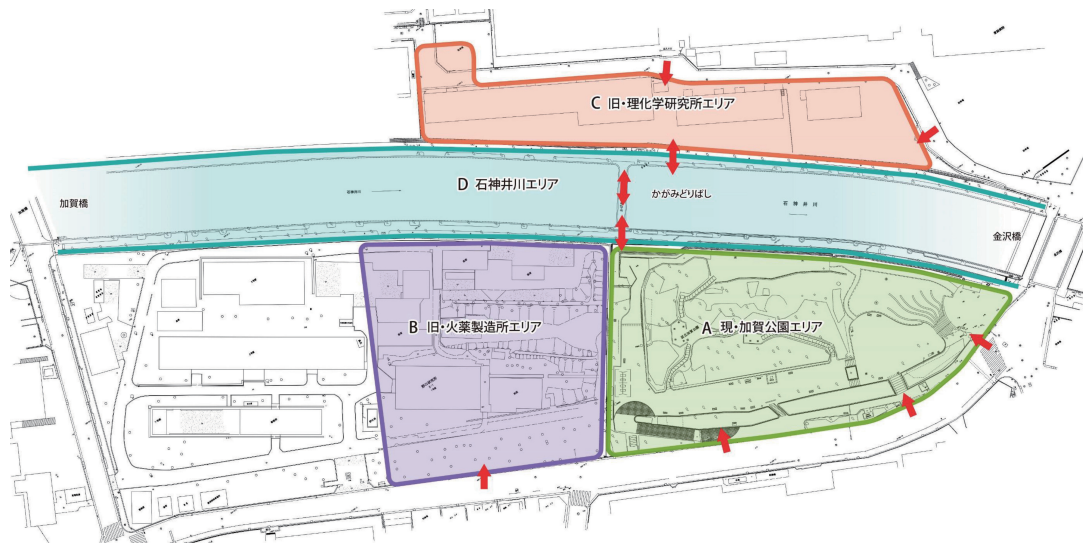


図 21 : 『板橋区史跡公園（仮称）基本構想』におけるエリア区分図

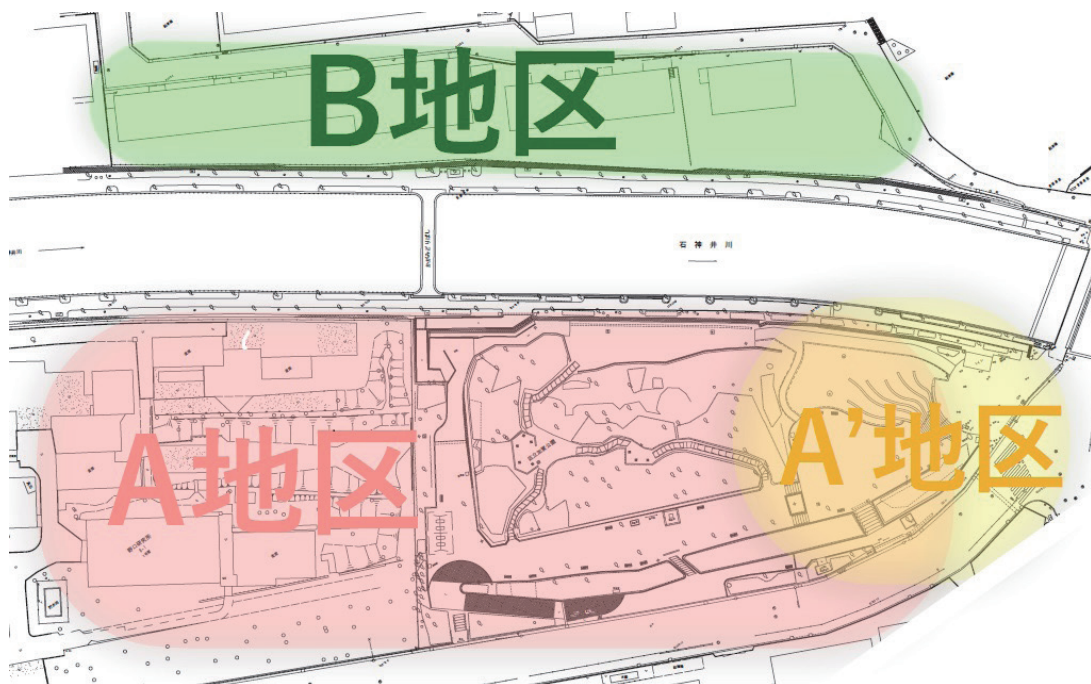


図 22 : 本計画における地区区分

